

平成 29 年度 東京大学まちづくり大学院演習第1(日常生活圏)

准教授 城所 哲夫
非常勤講師 須永和久

1. 演習の狙い

- ・日常生活圏レベルの広がりを持つ地区を対象とするまちづくりの技法について、演習する。
- ・昨年度に引き続き、目黒区自由が丘駅周辺を演習の対象地とする。
- ・対象地区は、東京西郊の商業集積地として、高い人気を誇っており、地元の商店街組織（振興組合、まちづくり会社等）がイベント開催や街並み誘導等活性化に積極的に取り組んでいる。
- ・一方、現地においては、道路、歩行空間、オープンスペースの不足、商業と住宅の調和、鉄道による分断などの課題を抱えており、また、いくつかの地区で再開発や個別更新の動きもある。
- ・そこで、上記の状況を踏まえて、2030 年代に向けた持続可能な商業地としてのあり方及びその実現手法を検討提案することを通じて、地区単位のまちづくりの現況課題分析から計画及び実現手法の流れ、考え方、組み立て方法を習得することを演習の目的とする。

2. カリキュラム

①対象都市

- ・目黒区自由が丘駅周辺

②実施期間

- ・平成 29 年 9 月 30 日から 11 月 18 日の毎週土曜日、午後 1 時から 6 時。8 回

③演習の進め方

- ・自由が丘駅周辺の将来像及び方向性を検討提案し、ランドデザインとしてまとめる。そしてランドデザインを実現する具体的なプロジェクトを検討提案する。
- ・1 グループ 4~5 人とし、3~4 グループに分けて検討する。

○ランドデザイン：「2030 年代の自由が丘」

ア. 将来像

- ・2030 年の人口経済社会、商業環境や交通環境を踏まえた、周辺商業地との差別化、商業地の構造、商業集積のあり方、ターゲットを提案する。

イ. 方向性

- ・将来像を具体化する市街地構造、土地利用のゾーニング、交通システム等を提案する。

ウ. ロジック

- ・インプット（プロジェクトや施策、取り組み）、アウトプット（達成される成果）、アウトカム（将来像）が一貫するロジックを検討する。

○プロジェクト

- ・ランドデザインを実現するための具体的なプロジェクトを検討する。プロジェクトの大まかなテーマについては、教員側が提示し、その中から学生が選択する。

プロジェクト 1：「未整備都市計画道路の整備と合わせた沿道再開発」

プロジェクト2：「自由が丘らしい建物の個別更新の誘導」

プロジェクト3：「2030年の交通システム整備」

プロジェクト4：「緑地系・文化系プロジェクト」

プロジェクト5：「雇用創出まちづくり」

プロジェクト6：「住み続けられる自由が丘」

④スケジュール(予定)

・8回実施する。

□第1回：9月30日(土)：オリエンテーション(現地)、グループ分け

□第2回：10月7日(土)：現況・課題・将来像検討

□第3回：10月14日(土)：現状課題分析作業・プロジェクト選択

□第4回：10月21日(土)：グランドデザイン・プロジェクト検討作業

□第5回：10月28日(土)：グランドデザイン及びプロジェクト骨子案中間発表

□第6回：11月4日(土)：成果作成作業

□第7回：11月11日(土)：成果作成作業

□第8回：11月18日(土)：最終発表

演習終了後、地元プレゼンテーションする機会を設ける可能性がある。

⑤成果物(予定)

ア.体裁

・グランドデザイン：A3 パネル 5枚程度

・プロジェクト：A3 パネル 10枚程度

・いずれもパワーポイントで作成

イ.内容

・グランドデザイン：課題分析、課題解決の方針、地区の将来像

・プロジェクト：実施内容、実施主体、実施に当り必要な制度手法・財源等

⑥体制

ア.まちづくり大学院

・城所哲夫 准教授

・須永和久 非常勤講師(株式会社計画技術研究所代表取締役)

・林一則 Jスピリット専門委員(まちと建築デザイン事務所)

・西原まり TA(株式会社計画技術研究所)

イ.協力者(予定)

・Jスピリット

・自由が丘商店街振興組合